

山ぼうし

第35号 平成20年 2月29日

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、

花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし

の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



物づくりの心

校長 兼 平 栄 補

ジット（JIT）経営研究所の平野裕之氏の著書「物づくりの心」に以下の記述がある。

『物づくりで、もっとも大切なことは「心」です。心なきものは、単なる「物」でしかありません。物であって、製品とか商品と呼ぶ「品物」になり得ません。ですから品物を作るのであれば、それは「物づくり」という言い方ではなく、本来は「品物づくり」と言うべきところです。

品物の「品」という字は、「口」を三つ書きます。おしゃべりをする「口」が三つあって、これで「品」を表します。これは何故でしょうか。左下の「口」は、「作ってみました。どうぞお使い下さい」という「作り手の口」です。そこには「謙譲の心」が光ります。

右下の「口」は、「それでは、使わせていただきます」という「使い手の口」です。そこでは「謙虚な心」がにじみます。

それでは二つの「口」の上にある、もう一つの「口」は、一体何を表すのでしょうか。それは、作り手と使い手の両者を結ぶ、「ありがとう」をいう「口」で、お互いの「感謝の心」を示します。両者の感謝の言葉を根底で支えているのは、互いに相手をいたわる心と、人を優しく包んでくれる自然や地球を慈しむ心です。

……中略……

このように「品」という文字をとらえるなら、

「製品」とは物づくりの心を、「商品」は商いの心を、それぞれ物に託したものと言えます。……中略……

物づくりは、「ありがとう」の気持ちをこめた「心」なのです。』

就職する人の多くは、物づくりの仕事に就く。今、物づくりの現場は、品質向上・生産性向上を目指し5Sを徹底している。整理・整頓・清潔・清掃・躰の徹底である（更に東芝では、しっかり・しつこくを追加して7Sとしている）。先日管内企業の「生産革新発表会」に参加したが、老若男女を問わず、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきた（自己の革新も含めて）。あの積極的な姿勢は、生徒諸君にも是非見習って欲しい。今、現場では、自立・自律的に向上を目指す「心」を持った人材を求めているのである。

ちなみに、JITとは「ジャスト インタイム」の略であり、JIT生産方式は「必要な人に、必要なものを、必要な量だけ、必要な時に」という、生産性の向上・在庫削減などを目指す生産方式である。まさに自動車産業はこの方式である。実際、関東自動車工業を見学すると、受注生産であるので、生産ライン上に注文の順に様々なグレード、塗装色の車が並んでいる。

魅惑的な人

平成19年度3学年長 佐々木治彦

卒業おめでとう。赴任して2年間で感じたのは「ものすごいエネルギーとパワー」を持つ学年ということでした。これから大切な事は、その「エネルギーとパワー」をどのような方向に活かし、オリジナルの「武器」（魅力）を創っていくかにある。

高校三年間は「自分の長所を最大限に伸ばすための期間」であり、その「長所」がこれからの人生においての君たちの「武器」にきつとなるはず。これから、少しずつ一生をかけてあせらずじっくりとマイペース

で創り上げてください。個人差は当たり前。

君たちはここまで、多くの方々に見守られながらここまでできました。感謝の気持ちをもって、巣立っていくものと確信したい。君たちの「エネルギーとパワー」は必ず、これからの人生の「武器」になるものと期待する。私自身、マニュアルどおりの行動しか出来ない人間には残念ながら魅力を感じたことはありません。「また会いたいな」と他人から思われるような魅力ある人間をめざして欲しい。そして自分にしかない「武器」で「夢への挑戦」へのスタートを切ってください。

君たちへ

機械科3年担任 佐藤 錦

入学から三年、年月の経過の早さに驚きを覚えます。君達とは二年生の時から正担任として携わってきました。私自身初めての担任ということもあり、試行錯誤しながら何か一つでも伝えたいという気持ちで取り組んできました。失敗や悩んだ事もありましたが、常に明るく前向きな姿勢で学校生活を送る君達の姿を見て勇気付けられ、時に頼もしささえ感じました。三年間で楽しかったことや嬉しかったこと、悔しかったことや腹が立ったこともあったでしょう。しかしその中で確実に成長し今の自分があるということ、そしてその成長の背景には保護者含め数多くの支えがあったということをお忘れ下さい。

これから君達が歩もうとする路は、楽しいことや上手いことばかりではありません。迷った時、策が見つからない時はどうか慌てず一呼吸置いてから次の一歩を踏み出して下さい。ゆっくりでも君達が更に自分を磨き、様々な分野で活躍することを心より願っております。

最後に一言「いつも成功する人なんていない。どのような結果が出ても次につながる何かを見つけることが大切である。何事も諦めず続けることがその人を強く、大きくする。」

君達が私のクラスの生徒であったことに…感謝。

知識と可能性

電気科3年担任 菊池 敏

卒業おめでとうございます。今日この日を待ち望んだ卒業生とその家族の皆様にお心からお祝い申し上げます。

学科改変という宮古工業高校の歴史の中でも節目に、中でも電気・電子機械・設備工業科では最後の卒業生として本校を巣立ち、社会で大きく活躍することを期待しております。

社会で一からスタートする皆さんにとって、高校で学んだことは、それ単体では役に立たないことばかりでしょう。しかし、色々な知識をブレンドすることで思いがけないアイデアや工夫に生まれ変わります。そんなブレンドを作るための柔軟性を育てていくと共に、高校での知識を知恵のスパイスの一つとして大事に取っておいてください。

また、皆さんは高校での勉強は卒業しますが、進学する人はもちろん就職する人はより一層「学ぶ」という姿勢を持ち続けてください。新しい知識を受け入れ、自分のものにしようとする努力を絶やさないと、皆さんの可能性をさらに広げてくれます。その知識を与えてくれる人やその機会を大切に、自ら「学ぶ」機会を失う選択をしないように心がけて頑張っていて欲しいと思います。

思い出

電子機械科3年担任 浅野樹哉

平成17年4月に入学してから、もう3年になります。過ぎてしまうとあっという間の3年間でした。おそらく同じように感じている人達もいるでしょう。絶対に忘れることができない修学旅行は、これまで経験したこともなく、これからはない修学旅行でしょう。また、最後の電子機械科の生徒として工業祭や閉科式を行ったりと何事にも中心として取り組んだことも忘れることが出来ません。普段の学校生活でもここでは書ききれないほどの思い出があります。

それぞれが感じたことは、良いことも悪いことも高校生活の思い出です。しかし、いつまでも高校生ではありません。これからは責任を持った大人として見られます。絶対に諦めずに、何事にも責任を持って取り組んでください。でも、辛いときなどは高校生活のことや、級友のことを思い出して元気を出し、また前を向いて積極的に取り組んで欲しいと思います。

そして、感謝の気持ちと常に明るく元気な挨拶を忘れずに、社会に出てからも活躍できることを期待しています。3年間ありがとう。

継続は力なり

設備工業科3年担任 川口 潤

高校生活も終わりを迎えようとしています。3年間という月日は、どうだったでしょうか。「長かったあ」と思う人もいれば、「あっという間だった」という人もいて、感じ方は人それぞれだと思います。しかし、毎日、長い距離を通い、勉強、部活をし、時には喜び、怒り、哀しみ、楽しみを繰り返し、3年間続けてきた成果が、『卒業』という結果をもたらしました。

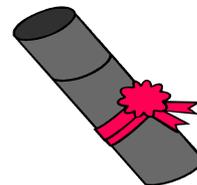
何気ないことでも、続けることで、必ず効果が出てくるものです。これからそれぞれ、別々の新しい人生を歩んでいくこととなりますが、まずは3年間、どんなことがあっても続けてみてください。そうすれば、何か成果が必ず出てくると思います。

また、3年間の高校生活が送れたのは、家族や親戚の方々など、毎日の生活を支えてくれた方々のおかげであることをお忘れ下さい。春から一人暮らしをする人も多くいますが、一人になってその有り難さが実感してきます。

最後に、個性豊かで、仲間想いのあつい気持ちをもったみんなと出会えて本当に良かったと思っています。この出会いが最高の宝になりました。社会人として成長した皆さんに会えることを楽しみにしています。

3月行事予定

3月1日 卒業式
3月11日 高校入試
3月18日 合格発表
3月24日 終業式・離任式
(3月11日～23日まで自宅学習)



卒業
おめでとう